

北九州市第一号の都市公園

# 清滝公園

KIYOTAKI  
PARK  
SINCE 1916.11

開園時に作られた絵葉書

## 「公園の父」と称された造園家 本多静六が手掛けた北九州市最初の都市公園に思いを馳せて

北九州市(旧門司市)第一号の都市公園として1916年(大正5年)に開設されたこの公園は、造園家 本多静六が手掛けた、いふなればデザイン公園でした。

明治44年、門司にお立ち寄りになられた明治天皇は、門司市(現門司区)に金五百圓を下賜されました。感激した門司市はそれを都市公園建設の基金の一部に充てることとし、当時名を馳せた東京農科大学(現東京大学農学部)の教授であった本多に設計を託すことになりました。

公園を設計するにあたり門司を訪れた本多は、既存の「清瀧遊園」を含む清滝地区を建設予定地とし、滝を正面から望める橋や園内を周遊できる散策路など、自然を生かしつつ変化に富んだ公園を造り上げました。

残念ながら昭和28年に水害により崩壊しましたが、今もなお、清滝の名にふさわしい清水のせせらぎを見ることができます。



▲清滝公園 入口



▲風師山へと向かう道路脇の入り口から公園に足を踏み入ると、木々に覆われた遊歩道が、山肌に沿うように上へと続き、右手には小川が所々で小さな滝となり流れ落ちています。

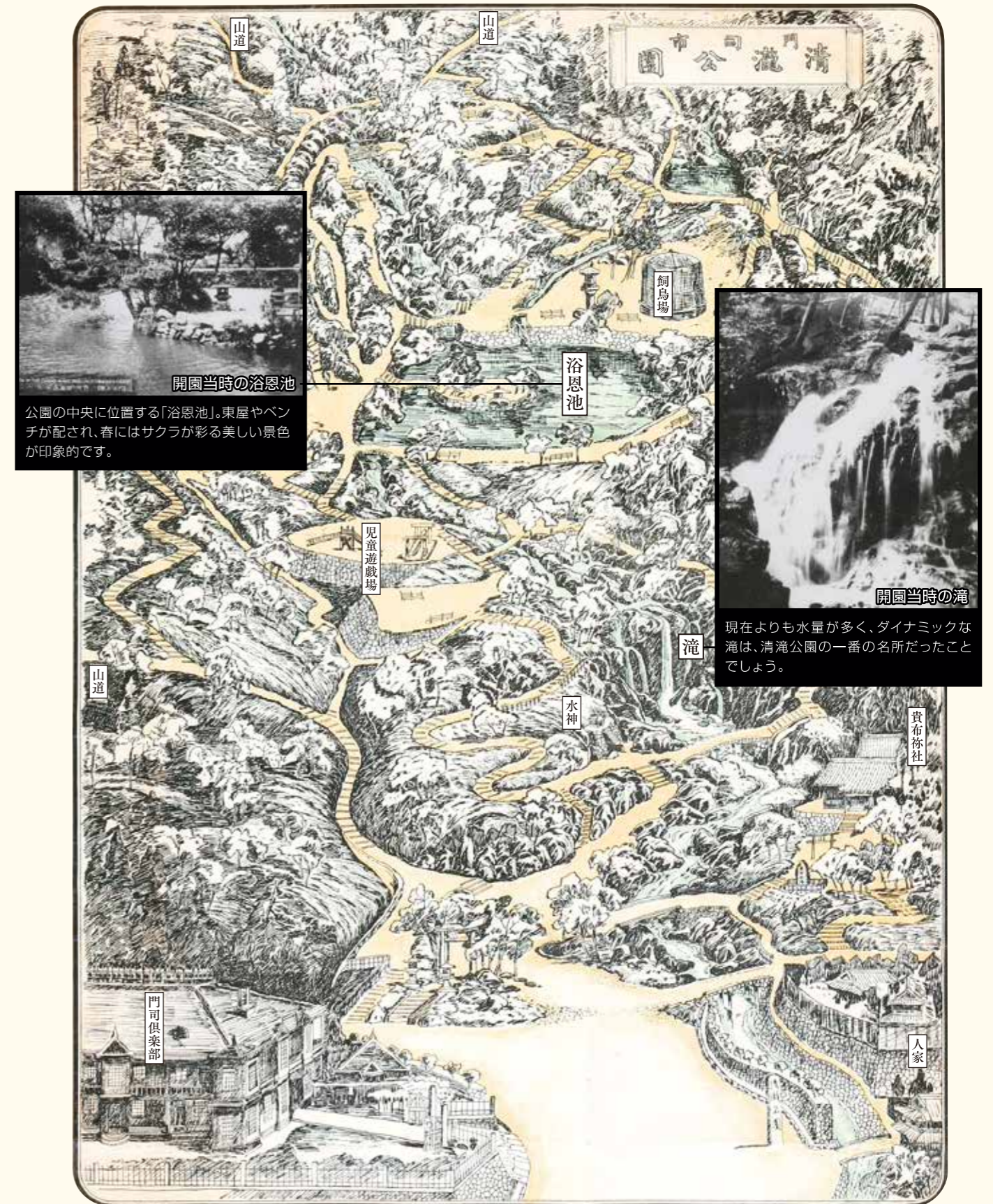
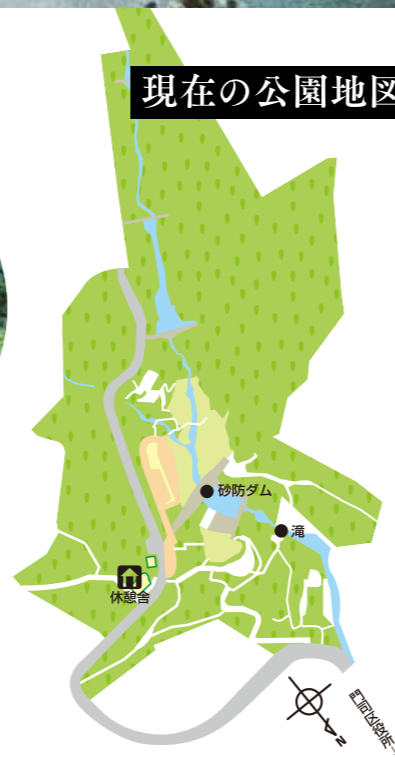


▲ひんやりとした遊歩道を登って行くと、桜が植えられた広場があり、石造りの砂防ダムのそばには小さな池があります。

所在地 / 門司区元清滝1番・4番・5番  
開設 / 1916年11月3日  
面積 / 3.4ha

交通 / JR「門司港駅」下車、徒歩約20分

## 現在の公園地図



開園当時の浴恩池

公園の中央に位置する「浴恩池」。東屋やベンチが配され、春には桜が彩る美しい景色が印象的です。



開園当時の滝

現在よりも水量が多く、ダイナミックな滝は、清滝公園の一番の名所だったことでしょう。

## 開園当時の公園絵図

開園当時の絵図。当時としては珍しかったと思われるシーソーやすべり台を設置した「児童遊戯場」や「飼鳥場」などもあり、大人も子どもも楽しめる造りだったことがわかります。斜面に沿ってくねくねと曲がりくねった遊歩道を散策する楽しさが伝わってきます。

協力: 門司図書館新門司分館 松ヶ江郷土史会



協力: 久喜市役所

日本の「公園の父」  
**本多 静六** 1866 - 1952

慶応2年(1866年)7月2日南埼玉郡河原井村(現久喜市菖蒲町河原井)生まれ  
明治17年3月東京山林学校(後の東京農科大学)入学  
明治23年 卒業とともに、林学を学ぶためドイツへ留学  
明治25年 2年間の留学で博士号の学位を取得、欧米を視察した後帰国し、母校の助教授、教授となる

本多静六は清滝公園の他にも、東京の明治神宮、日比谷公園、福岡の大濠公園など、公園の設計に携わりました。